

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0471500314
法人名	有限会社 スバル
事業所名	グループホーム 太陽
所在地 (電話番号)	大崎市古川中里二丁目7-1 (電 話) 0229-22-3003

評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20年 3月 18日

## 【情報提供票より】(平成20年3月2日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 12 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤 9 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 9 人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	造り	
	木造	階段で、2階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1300 円	

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 85 歳	最低	79 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮城厚生協会古川民主病院・長井内科医院・古川民主病院 歯科クリニック
---------	------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは平成15年12月に開設され、平成17年7月より現経営者(管理者)が引き継ぎ今日に至っている。古川駅から徒歩5分という住宅地の中にあり、地域に溶け込んでいる。管理者の「ここで安心して、家にいる時と同じ笑顔で過ごしてもらいたい」という想いを職員も理解し、気付きの介護を心がけている。また、終の棲家として此処で暮らしてよかったと思えるようにと、これまで4人の看取りを経験している。医師の24時間対応できる体制や職員に看護師がいることも心強い。管理者は職員に大きな負担がかからないように常に気遣いし、資格取得の応援をしたり感謝の気持ちも持っている。課題としては記録が充分と言えないところがあるので検討していただきたい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善点の①「介護計画の見直し...適切なケアの実施が継続される大切さを確認するためにも会議の記録をしていただきたい。」は、更なる検討をお願いしたい。②「緊急時の手当て...職員に看護師もいるので定期的に研修を実施し対応に自信をもてるようにしていただきたい。」は、改善されていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価するにあたりスタッフ全員に記載してもらい、全員で話し合い管理者がまとめた。一つひとつの項目をみて奥が深いという思いがして、更に学んでいく必要性をあらためて感じたということである。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを生かした取り組み(関連事項:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議のメンバーは入居者家族・民生委員・行政区長・地域包括支援センター・区親交会長・管理者・職員で構成され、第1回が19年5月、第2回が11月に開催されたがこれ以降は行われていない。「地域密着型サービス」として、自治体と地域住民、サービス事業所が密接に関わることが位置付けられ、この三者で構成された会議を2ヶ月に1回以上開催し、記録を取り、公表することが義務付けられたことから早急に次の開催をお願いしたい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>これまで苦情はないが、意見や希望はその都度聴いて対応している。公的相談機関を記載しているが、介護相談員がホームを訪ねて来るという事なので、その中のどなたかに第三者的な相談員をお願いし、その方も重要事項説明書に記載できるようにお願いしたい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に入会し、地域住民として会費も払っている。区長さんはじめ地域の人もホームのことを気に掛けて声掛けてくれたり、近所の高校や学校の通路になっているので入居者が声掛けすることもあり、地域との交流が図られている。地区の運動会やお祭りなどの行事に参加し、入居者も楽しみにしている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念として「のんびり ゆっくり 一緒に歩こう」を掲げている。基本的には家にいた時の延長線と捉え、地域の中で普通の生活をしてもらいたいということを心がけており、全員で共有しケアをしている。これまで理念の見直しはされていない。	○	地域との交流も深まりつつあり、これから更に重要視される場所でもあることから、地域密着型サービスとしての内容を取り入れた理念となるよう見直しをしていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時に理念について話し合い、職員全体で理解している。日々の支援の中で「もし自分だったらどうか」と入居者の立場に置き換えて考え、理念を生かしたケアをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、住民の一員として溶け込んでいる。地域の人の立ち寄りや挨拶は日常的に行われており、運動会やお祭りなどの行事に参加し交流を深めている。地域の人の認知症についての相談窓口にもなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己評価をした結果、過剰介護になっていないか、できることを奪っていないか等介護についての奥深さを実感し、研修会や勉強会でさらに介護のレベルアップをしたいとしている。今後は課題の改善計画を立て、記録するようにしていただきたい。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回の運営推進会議は平成19年5月と第2回は11月に開催され議事録もある。しかし、その後メンバーや事業所の都合がつかず開催されていない。	○	メンバーが揃っていることでもあり、地域密着型サービスの意味からも開催日を決めて協力してもらい、早急に開催できるよう期待したい。また、そこでの意見をサービス向上に活かしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターや行政との綿密な連携と協力体制が図られている。訪問した日も市の担当者が同行したり、キャラバンメイトとして相談を受ける等認知症サポーター養成をバックアップしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に話し合ったり、急変時はもとより薬の変更などまめに報告している。請求書と共に日常の様子が分かる写真をホーム便りに載せ送っている。買い物をする時本人に支払ってもらうが金銭は預からず、立替払いをしておいて後日家族から清算してもらう方法を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これまで苦情は無いが、意見や要望は来訪時に聞いて運営に反映している。事業所や公的苦情相談窓口を設けて重要事項にも載せている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少ないが、やむを得ず退職した場合には配慮によりあまりダメージは無い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は福祉のケアはヒューマンサービスであることをよく理解し、職員に資格取得を推奨している。日勤扱いにした上で研修にも積極的に参加し、資質向上に努めている。職員の個別の思いを汲み取り、年間の研修計画を立てて記録しファイルを作るようにしていただきたい。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加入し、他のグループホームとの相互研修での交流も図っている。10月にあった宮城県認知症グループホーム連絡協議会第5回実践報告会に於いて、「医療連携とターミナルケア」について看取りの事例発表を行った。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームに見学に来てもらい、安心して納得できるように工夫している。入居者が温かく迎えてくれる環境もあり、お互いの安心感で入居後本人も穏やかな表情に変化する。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普通の家族のように接し、得意な分野で力を発揮してもらい感謝の言葉を欠かさないようにしている。摘んできた蒔の皮むき・魚の調理の仕方や花梨を煮たら柔らかくなり洋梨の味がして美味しかった等の料理も教わっている。入居者からは「ゆっくりね」などいたわりの言葉を掛けてもらっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向や想いを把握できるように、日頃の会話の中での言葉を見逃さないようにしている。把握がしにくい人には家族から話を聴いたり、表情から汲み取るように工夫をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見を尊重しながら職員が日常のケアの中での気づきをメモし、ミーティング時にケアカンファレンスの内容を出してもらい、把握した課題を皆で話し合い介護支援専門員が介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度定期的に見直しをしている。モニタリングを行い、状況が変わった場合にはその都度見直しをして家族に報告しサインをもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の付き添いや、年間計画を立て特別な外出の支援をし柔軟に対応している。入居者の喜びがスタッフの喜びにもなっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医での受診は家族と協力し支援している。協力病院の他、近くの医師の24時間体制の協力と職員の看護師が連携しうまく関係が築かれている。定期的に歯科医の往診もあり、口腔ケアによりそれまで車椅子使用していた人が歩けるまでに回復した事例もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から本人・家族の意向を伺い、家族の希望もあり看取りを経験している。家族・医療機関・スタッフ三者協力して具体的に話し合い、方針を共有している。家族から同意書にサインをもらっているが、重度化や終末期の指針をまとめた文書をいつでも見られるようにしておいていただきたい。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への言葉がけに気を遣い、プライドを傷つけないように配慮している。プライバシーを守るために、職員には契約書を交わして個人情報に気をつけるよう話している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的なスケジュールはあるが、それに囚われることなく個々のペースに合わせて柔軟に支援している。食事に時間がかかる人にも、あたたかく見守りゆっくり食べてもらっていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフも一緒に食事をし、入居者はおしゃべりを楽しみながら美味しく食べていた。サポートが必要な人には程よい支援をしていた。下膳や食器洗いの手伝いも自然に行われ、食後はこたつに集い歌やおしゃべりを楽しんでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日入浴できるようにしているが、無理強いはせず夜間も含めて好きな時に入ってもらっている。拒む人には「共同生活だからね」などと声掛けを工夫している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の興味を引き出すようにし、関心ありそうなことや手馴れたことを手伝ってもらう。外出や買い物を楽しみにしている入居者が多く、その機会をつくり支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物などの外出を支援し、季節を感じたり歩くことでの身体機能維持の効果を期待している。ストレス解消にもなっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は自由に出入りしてもらい個別に支援したり、見守りを徹底して施錠はしない。無断外出を気付かず見逃してしまった場合には、ヒヤリハットに記録し注意を喚起する。面会時間終了後の20時からの夜間は安全のため鍵をかける。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	民生委員や地域住民に協力は得られるが、定期的な訓練は行われていない。連絡網も分かりやすいとはいえないので、早急に整備して目に付くところに貼り出すよう検討していただきたい。	○	火災や地震などの災害は何時来るか待ったなしの事柄である。いざという時適切な対応ができるよう夜間も想定した避難訓練を地域の人々の協力も得て早急に実施し、合わせて備蓄も考えていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表は職員が作成し、管理者の友人である管理栄養士から2～3ヶ月に一度チェックしてもらう。野菜や乳製品をもっと取り入れるようになど諸々のアドバイスをもらい、糖尿病だった人で薬が不必要になった事例もある。食事・水分摂取状況を記録している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは皆がゆったり快適に過ごせるよう床暖房・加湿器・天窓等が設置され、思い思いに自由にくつろいでいる。セミパブリックスペースも確保されている。大きな窓の外には梅の木があり、春になったら山野草も見られる。外出した時の思い出の写真や温もりが感じられる手作りの品が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んで華美過ぎず、その人らしい居室になっている。生活歴に配慮し、畳を敷いて和室風にして使用されている居室もあった。		